

すいた環境サポーター養成講座 第6回目

日時：11/4（月・祝）10：30～16：00

場所：万博記念公園自然文化園

◆ネイチャーガイド

講師：特定非営利活動法人大阪府民循環型社会推進機構 公認講師 森林インストラクター 丸井 正史氏、及び同機構ネイチャーガイドリーダー

万博記念公園のネイチャーガイドのコンセプトは、環境保全において重要な位置を占める樹木の観察などを行うことです。ガイドを実践するには、「ガイド」として自分ならどうするかを考えながら学ぶ事が重要になります。今回はそのガイドツアーを体験しました。



まずは自然文化園内の水系を見学し、園内の水環境について学びました。その後、少し紅葉し始めた木々を見ながら森

の中に入り、木の名前の由来、花が咲くメカニズム、香り、種の形態等を学びました。紅葉の仕組みについては、分かりやすい図解での説明があり、受講者は真剣な表情で聞き入っていました。松ぼっくりの説明では、講師がペットボトルに入った松ぼっくりを準備しており、受講者はどうやってこれを容器の中に入れたのか、不思議そうにしていました。どんぐりの森では、食用に適するどんぐりの説明等がありました。

受講者から「どんぐりってどんな味なんだろう」という疑問や、「教えてもらわないと分からない事ばかりだ」との感想が挙がっていました。

ネイチャーガイドの終盤、スターリングエンジンと森の足湯に立ち寄り、これを見学しました。



万博記念公園では森の生き物の多様化や、環境教育の場の整備を目的として、樹木の間伐・除伐・草刈り・稚樹の育成などの保全活動を行っています。この活動の結果、大量の間伐材が発生します。それをただ処分するのではなく、有効利用するためのひとつとして、ボイラーで燃焼させて、エネルギーに変換します。これにはスターリングエンジンというエンジンを使用します。そのエンジンは寒暖の温度差によってピストンを

動かすという、化石燃料を使用しない非常にエコなエンジンです。このエンジンを活用して発電を行い園内施設の一部で活用されるなどしています。

またボイラーで間伐材を燃焼させる際に、大量の冷却水を使います。その冷却水はボイラーを冷やすためお湯として温められ、森の足湯として活用されています。足湯が免疫力を高め、健康に良いことを聞いた受講者は、昼休み時間を利用して、足湯体験をされていました。

◆環境保全型農法体験

講師：特定非営利活動法人 野と森の遊び文化協会 職員 佐藤 和博氏

万博記念公園自然文化園生産の森には、(特活)野と森の遊び文化協会が管理する資源循環・環境保全型の農法で育む圃場（田んぼ・畑・果樹園）があります。ここでは、万博記念公園内の間伐竹や落葉等を活用した堆肥づくりを行い、農作物を育てています。そして、農作業自体を、障がいのある人々や子どもたちへの環境教育プログラムとして提供するシステムが構築されています

実習では稲の千歯こき、足踏み脱穀、唐箕体験をしました。受講者は皆経験がなく、道具が工夫されて作られているのに驚きながら、じっくりと作業に取り組んでいました。質問としてはその後の工程や落葉堆肥の作り方の質問等が挙がっていました。



また、同圃場に生息している草花を使い、草花遊びを学びました。



環境や自然についての問題に気付き、その解決方法を考え実践することが大切です。伝承草花遊びでは草花遊びを通して「自然は面白い！」という事に気づき興味を持ってもらい、その興味を関心へと昇華させて、自然をもっともっと好きになってもらうこと（情への変容）をねらいとしています。

本日は草笛、ケメリ（葉で作る草の器）を作ることを通して、自然を観察する上で有用な草花の特徴について学びました。

初めは苦労していた受講者もだんだんと上手になり、草笛では子供に戻ったように夢中になって、何度も試していました。草花遊びを通して、伝統的技術を学び、古くから育んできた自然と人との関係を再認識し、楽しく自然と触れ合うことが出来ました。

◆ふりかえり

第6回でも、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして終了しました。

